

二〇二六年度 大学院入学試験問題

文学研究科

日本文学・日本語専攻 〈博士前期課程入試（秋）〉

専門知識

注意

- 一 問題は全部で9ページである。
- 二 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
- 三 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 四 この問題冊子および解答用紙の持ち帰りを禁ずる。  
必ず提出のこと。

第一問 次のA～Jの中から三項を選び、それぞれ三〇〇字以内で説明せよ（解答の順序は自由でよいが、選択した問題の記号を解答用紙の所定の欄に記すこと）。

- A 『萬葉集』の挽歌の文学史的意義
- B 『源氏物語』の季節表現
- C 擬古物語
- D 仮名草子
- E 『生きてゐる兵隊』
- F 一九六〇年代の純文学論争
- G 方言圏論
- H 間接的言語行為
- I 準体句
- J 『春秋』

第二問 空欄①～⑩を埋めるのに最適なものを、それぞれ後のア～オから選び、記号で答えよ（日本文学専攻はA群、日本語専攻はB群の問題に解答し、選択した群の記号を解答用紙の所定の欄に記すこと）。

A群（日本文学専攻）

- 1 『萬葉集』の①は、太平洋戦争下に戦意高揚のために利用された。  
ア 相聞歌   イ 防人歌   ウ 伝説歌   エ 季節歌   オ 譬喩歌
- 2 主人公が外国の波斯国（現在のペルシア）に漂着する、平安時代の物語は『②』である。  
ア 伊勢物語   イ 源氏物語   ウ 宇津保物語   エ 落窪物語   オ 栄花物語
- 3 ③は、神代から『千載和歌集』に至る和歌の歴史を論じた『古来風躰抄』の著者である。  
ア 藤原俊成   イ 藤原公任   ウ 源俊頼   エ 藤原清輔   オ 壬生忠岑
- 4 『④』は、私家集ではあるが、歌日記的な性格もあり、源平合戦に巻き込まれ、恋人と別離を余儀なくされた女性の心情を伝える。  
ア 紫式部日記   イ 成尋阿闍梨母集   ウ たまきはる   エ 十六夜日記   オ 建礼門院右京大夫集
- 5 鎌倉時代末期から室町時代初期までの四十年以上にわたる動乱を描く『⑤』は四〇巻に及ぶ軍記物語である。  
ア 保元物語   イ 平治物語   ウ 平家物語   エ 太平記   オ 源平盛衰記
- 6 『童子問』などで知られる⑥は儒学者で、朱子などの注釈にとらわれず『論語』『孟子』などの原典から直接学ぶべきとする古義学を問いた。  
ア 林羅山   イ 荻生徂徠   ウ 伊藤仁斎   エ 頼山陽   オ 平田篤胤
- 7 明治二〇年代、早くに言文一致体を用いた時代小説として、⑦の「武蔵野」「胡蝶」を挙げる事ができる。  
ア 二葉亭四迷   イ 尾崎紅葉   ウ 坪内逍遙   エ 山田美妙   オ 田山花袋

8 プロレタリア文学が徐々に勢力を失い、通俗小説の台頭が純文学の危機感をもたらしていた昭和八年の文学界では、「文芸復興」の機運として『⑧』、『日暦』、『行動』、『文芸』が相次いで創刊されていた。

ア 新青年 イ 文芸首都 ウ 文学界 エ 近代文学 オ 文芸戦線

9 昭和十六年に太平洋戦争が始まると、翌年には、約四千人に及ぶ文学者の一元的組織である⑨が発し、戦意高揚のため国策の周知徹底や宣伝普及に協力していった。

ア 大政翼賛会 イ 日本文芸家協会 ウ 新日本文学会 エ 三田文学会 オ 日本文学報国会

10 明の李攀竜の編として刊行された『⑩』は、江戸時代に古文辞学派が盛唐の詩を評価したことで流行した。

ア 文選 イ 三体詩 ウ 唐詩選 エ 古文真宝 オ 古詩源

#### B群（日本語専攻）

1 実質的な意味をもつ語・語幹に助辞・接辞などが結びつき、それによって文法的機能が果たされる日本語のよきな言語は、言語類型的な分類では①にあたる。

ア 屈折語 イ 膠着語 ウ 抱合語 エ 祖語 オ 孤立語

2 言語学習者の第一言語と第二言語（目標言語）の途中の段階にある言語で、第二言語学習途上の学習者の言語体系の総称を②という。

ア 混交言語 イ 学習言語 ウ 干渉言語 エ クレオール言語 オ 中間言語

3 哲学者ポール・グライスの造語で、協調の原理および会話の公理により生み出される言外の意味を「会話の③（または、含意）」という。

ア 真意 イ 推意 ウ 表意 エ 暗意 オ 恣意

4 「花見」の「花」で「桜」を表すように、上位概念・下位概念の関係に基づく比喩を④という。

ア メタファー イ シネクドキー ウ メトニミー エ シミリー オ スキーマ

- 5 江戸後期の語学書で、富士谷成章によって著された書物に [5] がある。
- ア 脚結抄    イ 湖月抄    ウ 史記抄    エ 毛詩抄    オ 和字正濫抄
- 6 以下のうち、ソ系指示詞の用法でないものは [6] である。
- ア 聞き手領域指示用法    イ 中距離指示用法    ウ 曖昧指示用法    エ 照応用法    オ 焦点用法
- 7 命題内容に対する話し手の心的態度を [7] という。
- ア ダイクシス    イ モダリティ    ウ ポライトネス    エ ヴォイス    オ ベネファクティブ
- 8 「寒い」と「冷たい」、「話す」と「語る」は、 [8] の関係をなす。
- ア 類義語    イ 多義語    ウ 同音異義語    エ 同一語    オ 近接語
- 9 以下の表現のうち、ヴォイス形式を含む表現は、 [9] である。
- ア 走り出す    イ 食べ終える    ウ 死んでいる    エ 書いておく    オ 叱られる
- 10 以下の表現のうち、ら抜き言葉ではないものは [10] である。
- ア 寝れる    イ 食べれる    ウ 見れる    エ 枯れる    オ 来れる

第三問 空欄 a～p に、最適な人物・作品名・語句などを入れて、それぞれの文を完成させよ（日本文学専攻は A 群、

日本語専攻は B 群の問題に解答し、選択した群の記号を解答用紙の所定の欄に記すこと。また、送り仮名や助詞表記を除き、漢字で記すこと。B 群の用語はカタカナも可。作品名の『』などは不要。

A 群（日本文学専攻）

- 1 歴史書『 a 』に名が見える大津皇子と、歴史書『続日本紀』に名が見える b は、歌集『萬葉集』にも漢詩集『懷風藻』にも作品を遺している。
- 2 平安後期の説話集『今昔物語集』には、六歌仙の一人 c が女性を盗み出すという、平安初期の歌物語『 d 』に似た話が収められているが、超自然的存在の恐ろしさを強調する点に特徴がある。
- 3 『空華集』の著者 e は臨濟宗の僧で夢窓疎石に師事、絶海中津とともに f の双壁とみなされている。
- 4 前句付点者である g が評した付句を集めた『誹風柳多留』は、前句を省略して付句だけ独立させた前句付集として画期的であり、付句を独立させたものを後に h と呼ぶようになった。
- 5 『 i 』創刊号に載せられた横光利一の「頭ならびに腹」が奇抜で目新しい表現を駆使しているところから話題を呼び、創刊の翌月、評論家の j が「新感覚派の誕生」という文章を発表して、新感覚派という名称が生まれた。
- 6 k は、一九一七年に『少女画報』に投稿した『 l 』の第一話「鈴蘭」が採用されると、その連載は当時の女学生たちの間で大きな反響を呼び、のちに田辺聖子などの作家に影響を与えた。戦後の代表作に『安宅家の人々』『徳川の夫人たち』がある。
- 7 中国最古の詩集『 m 』は三百五篇の詩を収め、『易経』『書経』『礼記』『春秋』と並んで n の一つとなった。
- 8 陶淵明の『 o 』は桃源郷に迷い込んだ漁師の話である。 p 小説である『搜神後記』にも収められている。

B群 (日本語専攻)

- 1 言語の通時的な変化で起こる現象であり、動詞や名詞などの [a] が、前置詞や助詞などの [b] となることを [c] と呼ぶ。
- 2 *Metaphors We Live by* (邦訳『レトリックと人生』)の著者である [d] とジョンソンによる用語で、ある概念領域を他のより具体的な概念領域により理解するメタファーを [e] と呼ぶ。たとえば、「怒りに燃える」「怒りがくすぶる」「怒りに油を注ぐ」といった表現では、〈怒り〉が [f] に喩えられている。
- 3 ファーガソンにより提唱された概念で、ある言語社会において、2つ以上の言語または変種が同時に一つの社会に存在し使用されている状態のことを [g] と呼ぶ。そこには、[h] (ⅡH変種) と [i] (ⅡL変種) の区別があり、前者は、宗教、政治、教育、新聞、ニュースなどの領域と結びついた言語、後者は、同僚や家族、友人との日常的な会話、大衆芸能、民族文化などの領域と結びついた言語である。
- 4 「とばかりに」「をめぐって」「について」などのように、幾つかの語が複合してひとまとまりの形で辞的機能を果たす表現を [j] という。
- 5 日本語の動詞+動詞型の複合動詞は、「歩き疲れる」「踏みつぶす」「忌み嫌う」などの語彙的複合動詞と、「走り始める」「飲み過ぎる」「助け合う」などの [k] の二種に大別される。
- 6 節の表す事態の参加者が、その事態の中で果たしている役割のことを [l] と呼ぶ。たとえば、「太郎がハンマーで花瓶を割った」の例では、「太郎」は「割る」という行為を意図的に実現する [m] の役割を、「花瓶」は行為によって変化を被る [n] の役割を、「ハンマー」は道具の役割を担っている。
- 7 十六、十七世紀にイエズス会宣教師が日本での布教活動に関連して残した文献は、総称して [o] と呼ばれる。ポルトガル人宣教師である [p] によって著された『日本大文典』などがある。

第四問 次の文章は『韓非子』の一節であり、孟孫が獵で捕らえた鹿の子を秦西巴に持ち帰らせたことに始まる内容である。傍線部を現代語訳せよ。

(竹内照夫『韓非子・上』による)

第五問 次の問題に答えよ（日本文学専攻はA、日本語専攻はBの問題を選択し、解答用紙のその記号のある欄に記すこと）。

A（日本文学専攻）

次の文を、現代通行の字体に直せ（濁点・句読点は不要）。

（中野三敏『くずし字で「おくのほそ道」を楽しむ』による）

B  
(日本語専攻)

次の例文の意味の違いについて文法的な観点から説明せよ。

- (一) 父が帰宅するとすぐに風呂を沸かします。
- (二) 父は帰宅するとすぐに風呂を沸かします。

二〇二六年度 大学院入学試験問題

文学研究科

日本文学・日本語専攻 博士前期課程

〈博士前期課程入試（春）〉

専門知識

注意

- 一 問題は全部で2ページである。
- 二 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
- 三 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 四 この問題冊子および解答用紙の持ち帰りを禁ずる。  
必ず提出のこと。

問1 次のA～Sの中から五項目を選び、それぞれ解答用紙6～8行で説明せよ。\*選択した項目の記号を解答用紙に記すこと(解答の順序は自由で構わない)。

- A 大伴旅人
- B 『風土記』
- C 紀貫之
- D 『和泉式部日記』
- E 『保元物語』
- F 『徒然草』
- G 『曾根崎心中』
- H 上田秋成
- I 『青鞈』
- J 『白樺』
- K プロレタリア文学運動
- L 第三の新人
- M 『遊仙窟』
- N 白居易
- O 開音節と閉音節
- P アニマシー(有生性)
- Q 形式名詞
- R 言語類型論
- S 継承語

問2 次のA～Jの中から二項目を選び、それぞれ解答用紙12～15行で論述せよ。\*選択した項目の記号を解答用紙に記すこと(解答の順序は自由で構わない)。

- A 日本上代文学における『古事記』成立の意義について、説明しなさい。
- B 日本中古文学における物語文学の展開について、具体的な例を挙げながら説明しなさい。
- C 日本中世文学における和歌について、具体的に二首を挙げて解釈しなさい。
- D 日本近世文学における笑いの文学について、具体的な例を挙げながら説明しなさい。
- E 外国文学の日本近代文学への影響について、具体的な例を挙げながら説明しなさい。
- F 日本近代文学における「マイノリティ」について、具体的な例を挙げながら説明しなさい。
- G 『莊子』の日本近世文学への影響について、具体的な例を挙げながら説明しなさい。
- H 『史記』の日本文学への影響について、具体的な例を挙げながら説明しなさい。
- I コーパスを用いた日本語研究の利点と限界について、あなたが知る研究事例を挙げながら具体的に論じなさい。
- J 類義関係にある日本語の副詞のペアを一つ挙げ、両語の意味の違いを反映した現象をできるだけたくさん示しなさい。